

『日本語日常会話コーパス』が話し言葉研究に果たす役割

小磯花絵（国立国語研究所）

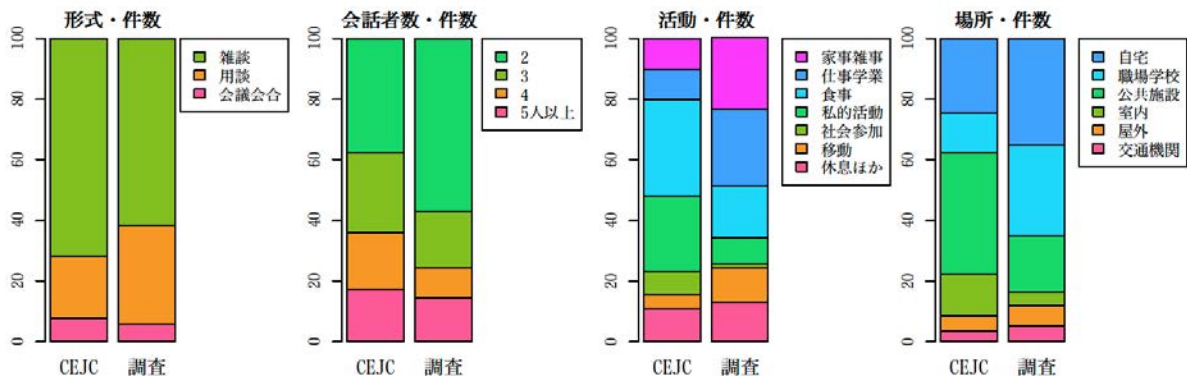
日常会話は社会生活の基盤であり、日常の話し言葉の特徴や仕組み、日常生活を円滑にするための会話コミュニケーションの有様を解明することが求められている。これまで種々の話し言葉コーパスが構築・公開されてきたが、その多くは特定の場面や話者層に偏っており、日常生活の中で私たちがどのような言語行動をとっているかを調査することは難しかった。そこで「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」プロジェクトでは、さまざまなタイプの日常会話 200 時間をバランス良く収録した『日本語日常会話コーパス』(CEJC) を構築し、それに基づく分析を通して、日常会話を含む話し言葉の特性を多角的に解明することを目指している。

CEJC の特徴は、1) 日常場面の中で当事者たち自身の動機や目的によって自然に生じる会話を対象とすること、2) 多様な場面の会話をバランスよく集めること、3) 音声だけでなく映像まで含めて収録・公開し会話行動を総体的に解明するための研究環境を提供することである。そのために、性別・年齢などの観点からバランスを考慮して選別された協力者 40 名に機材機器等を貸し出し、協力者の日常生活で自然に生じる会話を協力者自身に記録してもらうという方法を中心に会話を集めてきた（右図）。



30 代男性が収録した妻・義母との会話

2018 年 12 月 4 日には、全体 200 時間のうち 50 時間の会話を対象とするモニター公開を開始したところである (<https://pj.ninjal.ac.jp/conversation/cejc-monitor.html>)。本発表では、日常会話の実態をとらえるために行った会話行動調査と比較しながら、CEJC がどのような種類の会話を収めているかを概観した上で（下図）、CEJC を使うことでどのような話し言葉研究が可能となるかを示す。



モニター公開対象データと会話行動調査における「形式」「会話者数」「活動」「場所」の内訳